

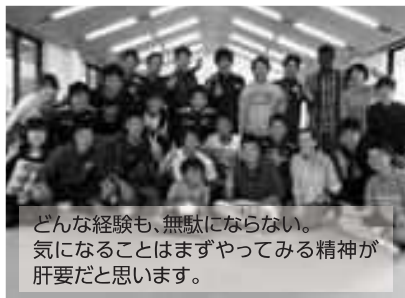
瑞穂市で活躍する女性に聞く!

男女共同参画

朝日大学留学生別科別科長・保健医療学部教授 **松井かおりさん**
(市民ボランティアグループ「多文化子どもエデュニホ☆nico」代表)

市では、『『おもいやり』『ささえあい』から始まる瑞穂の夢まちづくり』をスローガンに、男女がお互いを尊重し、性別に関わりなく個性と能力を活かして充実した生き方ができる社会づくりを目指しています。

今回は、朝日大学の松井かおりさんにお話を伺いました。



どんな経験も、無駄にならない。
気になることはまずやってみる精神が
肝要だと思います。

朝日大学で学部生に英語を、留学生に日本の文化を教えています。また毎週日曜に、市民センターで市民ボランティアの先生方と海外にルーツがある子どもたちの補習教室やワークシヨップ活動を運営しています。

私は元々、男女雇用機会均等法の施行3年目にテレビ局へ入局し、情報番組の制作に携わりました。都会の真ん中にある小学校が、ドーナツ化現象によって過疎が進み廃校が危ぶまれる環境に陥った時、新入生7人が上級生や地域の人たちと一緒にたくましく学校生活を送るようすを定点観察したり、高い志をもって来日した留学生が、アルバイトと学校を掛け持ちする生活に疲弊しながらも、アパート住民や職場の人の助力を得て奮闘する姿取材したこともあり、どの人も独りでは学べない、学びの環境はみんなが支え守っていくものという気持ちが強くなりました。



市内には現在およそ2千4百人の外国人がたが住んでいて(人口比外国人割合は市レベルで県内第3位)、市内小・中学校へ通う外国籍の子どもたちは160人を超えます。親の都合で突然日本に来ることになった子が少なくありません。ことばの壁は高く、特に教科の学習理解には長い年月がかかります。彼らの学習を根気強くサポートしながら、自信や将来への希望を失わないように、遊びや自己表現活動を取り入れて、これからも外国人と日本人の子どもたちが共同で学ぶ環境の成立に努力していきたいと思っています。それは外国人の子どもたちにとっただけでなく、日本人の子どもたちにとっても現在の教育を見直す良い機会になると思います。

もし、活動にご興味があるかたがいらしたら、ぜひ一度外国人の子どもたちとお話してみませんか? 市民ボランティアグループ「多文化子どもエデュニホ☆nico」でお待ちしています。

●問い合わせ

総合政策課

☎32714128